知っていますか？ 国民年金保険料の免除申請

経済的な理由などで国民年金保険料を納付することが困難な場合には、申請により保険料の納付が全額免除または一部免除となる保険料免除制度があります。

保険料を未納のままにしておくと、将来の老齢基礎年金や障害や死亡といった不測の事態が生じたときの障害基礎年金・遺族基礎年金を受け取ることができない場合があります。

令和７年度の免除申請は令和７年７月１日から受け付けます。免除の対象期間は令和７年７月から令和８年６月です。また、申請時点から２年１か月前までの期間について、さかのぼって免除を申請することもできます。

前年度、全額免除の承認を受けたかたが引き続き全額免除の承認を希望する場合は、申請は不要ですが、失業などを理由とした特例による免除承認であった場合には、翌年度も申請書の提出が必要です。離職票をお持ちになり、太田年金事務所または板倉町役場住民環境課戸籍年金係へ申請をお願いします。

問合せ　太田年金事務所 ☎49－3716

鍵の出張作業を頼んだら想定外の料金に！

【事例１】

夜、自宅の鍵を紛失したことに気がつき、ネットで見つけた鍵交換業者に連絡すると「通常５千円～３万円。最高で５万円」と言われた。作業前に料金を確認したが返事がないまま作業され、作業後約10万円の高額な請求を受けた。（70歳代）

【事例２】

自宅の鍵を紛失し、ネットで探した事業者に開錠を依頼した。サイトには開錠費用が３千円～８千円と記載されていた。作業前に費用の説明があったかもしれないが、聴覚などの障がいがあるのでうまく聞こえず、早く開けてほしい焦りもあって返事をしてしまったかもしれない。請求額は約６万円で高額だ。（30歳代）

【ひとこと助言】

鍵の紛失などに気づいたら、まずは慌てず、家族や周りの人に相談しましょう。

時間帯や現場の状況により、ネットの広告に表示された料金で依頼できるとは限りません。焦らず、作業してもらう前に納得できるまで説明を求め、作業内容と料金は必ず書面で確認しましょう。

料金や作業内容に納得できない場合は、後日納得した金額で支払う意思があることを示しつつ、その場での支払いは断りましょう。

緊急時に備え、所有する鍵の種類やメーカーなどを確認し、信頼のおける事業者の情報を調べておくと安心です。賃貸住宅の場合は大家や管理会社に対応方法を確認しておきましょう。

広告などの表示額と実際の請求額が大きく異なる場合など、事業者とトラブルになった場合は、早めにお住まいの自治体の消費生活センターなどにご相談ください。

相談は消費生活センターまで　☎８２－７８３０（ナヤミナシ）

休日当番医

期日	内科系		外科系	耳鼻科
７月６日(日)	三浦医院 ６２－２９１７	小西医院 ８６－２２６１	澤田皮膚外科 ７０－７７０３	川村耳鼻咽喉科医院 ７２－１３３７
７月13日(日)	みづほクリニック ２０－１１２２	神尾内科医院 ７５－１２８８	館林市夜間急病診療所 ７３－２３１３	－
７月20日(日)	まりレディスクリニック ７６－７７７５	真愛ウィメンズクリニック（旧：真中医院） ７２－１６３０	堀井乳腺外科クリニック ５５－２１００	板倉耳鼻咽喉科クリニック ８０－４３３３
７月21日(月)	湯沢医院 ６２－２２０９	藤原医院 ８８－７７９７	館林医院 ７４－２１１２	－
７月27日(日)	竹越医院 ８４－３１３７	たけい小児科・アレルギー科※ ７６－２５２５	慶友整形外科病院 ４９－９０００	－
８月３日(日)	新井内科クリニック ２０－１２２０	こやなぎ小児科※ ８０－２２２０	田沼整形外科医院 ８８－９２２３	なるしま耳鼻咽喉科クリニック ７６－７６４０
８月10日(日)	かさはら内科医院 ５５－２５３７	うえの医院 ７２－３３３０	－	－
８月11日(月)	いたくら内科クリニック ７０－４０８０	堀越医院 ７３－４１５１	井上整形外科医院 ８２－１１３１	－

歯科	
館林邑楽歯科保健医療センター ７３－８８１８ 午前９時～正午	◆緊急　公立館林厚生病院（内科系・外科系）　☎７２－３１４０ ◆夜間　館林市夜間急病診療所（内科・小児科）午後７時～10時（日・祝、年末年始除く） ☎７３－２３１３（要受診前電話連絡）

●診療時間は、午前９時～午後５時（ただし、耳鼻科の診療時間は、午前９時～午後１時）　●内科系の※は、小児科のみとなります。

Face フェイス

アートディレクター

本質を伝えるために、考えることが仕事

白田　啓秀さん

しらた　けいしゅう
除川在住

最近夢中になっているのは洗車で、きれいになると気持ち良く、しばらく眺めているそうです。

レポーター
広報編集委員
柏崎祐子（かしわざきゆうこ）

アートディレクターってどんな仕事？

渡良瀬川の土手そばにアトリエ兼自宅を構える白田啓秀さんは、企業や地方自治体の広告やプロダクト、イベントなどを手がけるアートディレクターです。「アートディレクターはただ“作る”人ではなく、クライアントと話しながらその商品、サービスの本質を見つめ、“どう見せれば伝わるか”を考えることが仕事」と話します。大学卒業後、都内の制作会社で経験を積み、この「考える仕事」に魅了され、約10年前に独立しました。

「聞くこと」が仕事の８割

大切にするのは「聞くこと」。「まず相手のことを深く知る。本人も気づいていない魅力が見えてくることがある」と言います。見た目をかっこよくするだけでなく、その“らしさ”をデザインに落とし込むことで、独自の魅力が形になり、多くの人に届いていくのがこの仕事の醍醐味だそうです。

仕事とくらしがつながっていく

コロナ禍に都内のオフィスを閉じ、奥さんの実家がある板倉町へ移住。自然に囲まれた環境で気持ちよく仕事ができることを実感しています。「どこにいても積極的に動けば情報は取りにいける」と白田さん。また、「本を読んだり映画を観たり、どこにでも仕事のヒントがある」と言うほど、仕事とくらしがつながっています。特に板倉町に来てからは家族との時間が増え、子どもといるのが当たり前の日常になりました。今後の仕事について尋ねると、「公共のこと、地域の良さを再認識するきっかけになる仕事ができたら」と。

働き方の選択肢が広がった今、板倉町で“自分らしい仕事”を実現する人が増えています。そんな選択がこの町をもっと面白くしていく、白田さんの話からそんな未来の可能性が感じられました。